

法政大学サステナビリティ研究所 原発事故被災地再生研究会
2016 年度公開研究会

ボトムアップによる原発事故被災地の「再生」 ——イニシアティブを発揮するために

日時：2017 年 3 月 22 日（水）13：30～17：50

場所：法政大学市ヶ谷キャンパス 外濠校舎 S201 教室

原発事故被災は、健康被害の恐れ、長期避難、地域社会の崩壊、放射性物質による環境汚染などを引き起こした。そこからの再生は、生活の設計、地域社会の再構築などを住民自身の手でコントロールすることが基盤とならざるを得ない。しかしながら、現在の被災地再生政策は、「復興」を目標とした産業振興政策に偏りがちで、しかもトップダウンのかたちで進められていて、被災者が「自己統御感」をもって生活や社会を再生していく状況は希薄である。そこで、この公開研究会では、地域住民によるボトムアップからの「再生」の実践例に注目し、そのイニシアティブはどのような形で発揮されているか、そのために何が必要かを議論する。

スケジュール：

13：30-13：45 問題提起

13：45-14：50 セッション1

発表：協同セクターのイニシアティブによる森林の「再生」

早尻正宏（北海学園大学経済学部准教授）

ゲストコメンテータ：山本信次（岩手大学農学部准教授）

14：50-15：00 休憩

15：00-16：05 セッション2

発表：マーシャル諸島原水爆実験地における避難者

竹峰誠一郎（明星大学人文学部准教授）

ゲストコメンテータ：友澤悠季（長崎大学環境科学部准教授）

16：05-16：15 休憩

16：15-17：20 セッション3

発表：放射性物質汚染調査における市民測定所のイニシアティブ

清原悠（法政大学サステナビリティ研究所 RA）

ゲストコメンテータ：定松淳（東京大学大学院総合文化研究科特任講師）

17：20-17：50 総括討議

* 公開研究会へ参加を希望される方は清原までご連絡ください。
(yuu.kiyohara127@gmail.com)

* 終了後、研究交流会を行います。ぜひご参加ください。(立食形式 18時～19時30分、同キャンパス内 ボアソナードタワー25階スタッフクラブ)